



委員意見をロジックモデルの評価につなぐ情報設計

～ 指標を活かし、人の確認を残す生成AI支援PoC ～

2026年8月1日

データデザイナー 柴田修一

はじめに: 今回の検証の前提とPoCの位置づけ

ロジックモデルを用いた中間評価の検討過程が分かる

がん対策推進協議会の公表資料を使用

- 委員意見を整理し、評価指標へつなぎ、要確認を残す**事務局業務を想定**
 - 公表前の機微な資料を扱う場面を念頭に、公表資料を用いて、
ローカル／オンプレ環境と人の確認を組み合わせた支援の余地を検討
 - 完全自動化ではなく、評価実務の一部を**機械処理で支援**できる範囲を検証

※PoC：概念実証。完成した業務システムではなく、限定した条件で支援可能性を確かめる検証。

注：本発表は公表資料を事例に用いた独立したPoCであり、発表者はがん対策推進協議会および事務局とは関係ありません。

評価指標を作った後にも、意見を戻す整理が残る



評価項目を定めることと、
意見を評価へ戻すことは別の整理課題

注：今回のPoCから得た問題設定であり、事務局の実際の業務工程や一般的な工数効果を示すものではない。

委員会資料との対応イメージ

2019年1-6月			2019年1-6月					2019年1-6月				
项目	2019年1-6月	2019年1-6月	项目	2019年1-6月	2019年1-6月	项目	2019年1-6月	2019年1-6月	项目	2019年1-6月	2019年1-6月	
							</					

「1次予防 ロジックモデル」

学年	対象分野	人数	内訳	コア履修率	履修率	3年	4年	備考
金体部員	「一人一人が抱えている課題を克服し、全ての仲間と心を通わせる。」							
	個別アクトA目標	000001	○	がんの生涯発症率※1（75歳未満、全年齢）	1001	1	がん検診実施	
		000002	○	がんの生涯発症率※2（75歳未満、全年齢）	1002	1	がん検診実施	
		000003	○	難病診断（代表例：難病）の生涯発症率	1003	1	がん検診実施	
		000004	○	がんの生涯発症率※3※4	1003	全学年	がん検診実施	
		000005	○	がんの生涯発症率※5※6	1004	全学年	がん検診実施	
		000006	○	がん検出率5年生存率	2001	全学年ががん検診/胸がんがん検診		
		000007	○	がん検出率5年生存率	-	全学年ががん検診/胸がんがん検診		
		000008	○	難病診断（代表例：難病）の5年生存率	-	全学年ががん検診/胸がんがん検診		
		000009	○	がん検出率5年生存率	2001	全学年ががん検診/胸がんがん検診		
		000010	○	現在自分から日常生活を断れている状態にあるがん患者の割合	3001	がん検診実施		
		000011	○	現在自分から日常生活を断れている状態にあるがん患者の割合	3001	がん検診実施		
		000012	○	現在自分から日常生活を断れている状態にあるがん患者の割合	-	がん検診実施		
1. 科学的知識に基づきがん予防・がん治療の成果								
	個別アクトA目標	100001	○	がん検出率5年生存率（胃・大腸・肺・女性・乳腺・甲状腺がん）	1004	全学年ががん検診		
		100002	○	がん検出率5年生存率（胃・大腸・肺・女性・乳腺・甲状腺がん）	1004	全学年ががん検診		
		100003	○	がん検出率5年生存率（胃・大腸・肺・女性・乳腺・甲状腺がん）	1004	全学年ががん検診		
		100004	○	検診がん検出率5年生存率	-	全学年ががん検診		
がんの1次予防								
生涯学習に力点								
	個別目標	-	-	指導設定制（厚生労働省社会・福祉政策推進協議会「次世代・推進委員会」）	-	-	-	
	アクトA目標	111101	○	第1次検診17歳未満、地域で対象外より、がんに関する正しい情報の提供（総数）	-	-	-	県立研修・卒後調査
	中核アクトA目標	111201	○	第1回18.5歳と25歳未満（65歳以上は第1回20歳と25歳未満）の割合	1018	国・県研修・卒後調査		
		111202	○	がん検診実施率の平均値	1019	国・県研修・卒後調査		
		111203	○	がん検診実施率の平均値	1020	国・県研修・卒後調査		
	※51400学生	111204	○	単年度検診率の平均値	1021	国・県研修・卒後調査		

「(第93回)第4期がん対策推進基本計画コア指標一覧(案)」

[illegible]

「全体データ(ベースライン値)／全体データ(中間測定値)」

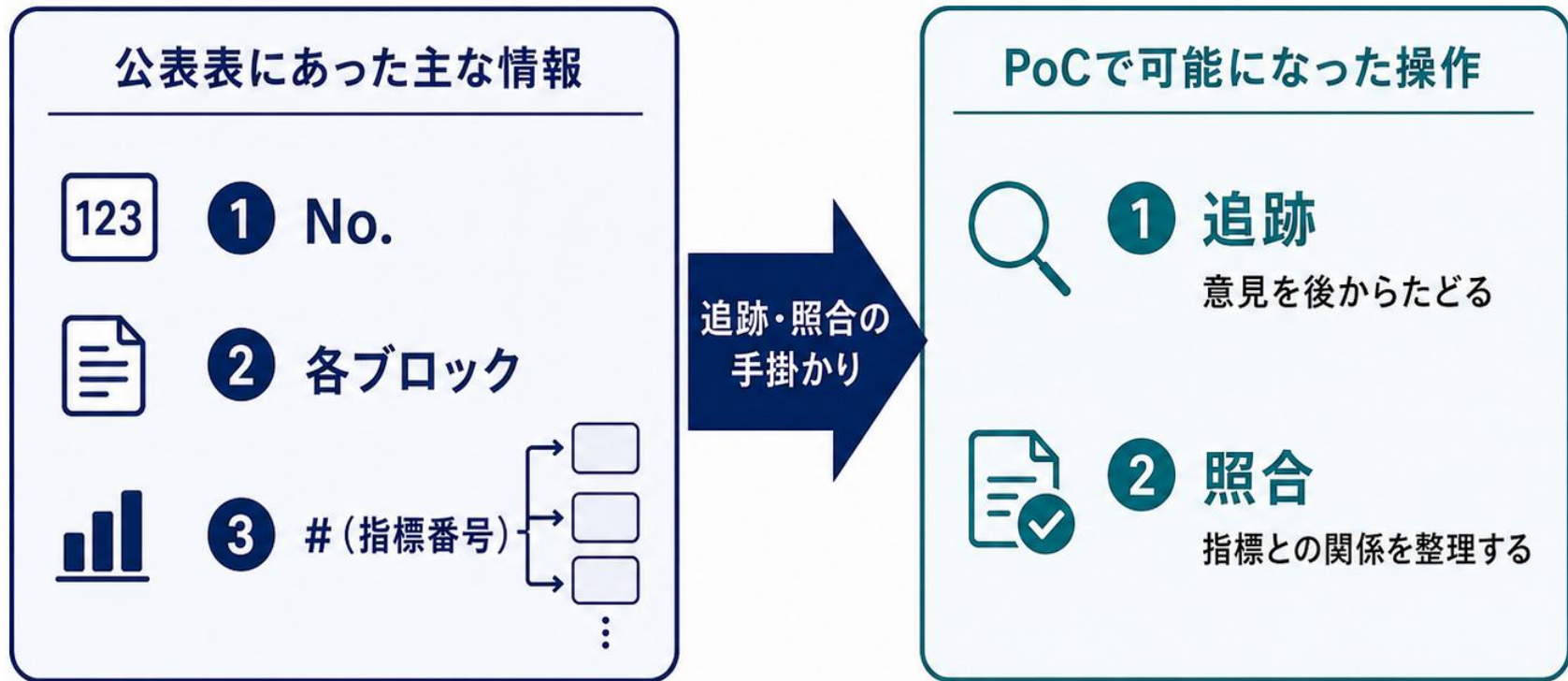
No.	各プロセス	# (指標番号)	評価される事項	「がん対策推進協議会として5年に推進が必要と考える事項」更新の仕組み、又は改善等が必要な点
◆全体				
1	がん予防とがん医療	全体		食生活と関連があるが、中間アクトラムが定まらなくてはならない。その要因は毎年に「更新」の仕組みが整い、状況である。評価の指標を高める観点から、関連する活動可能性を検討する必要があると考える。例えば、令和の国民健康調査調査結果と10年前の調査結果を一致と見做すのではなく。
2	がん予防とがん医療	全体	罹患者・死亡率がすべてにおいて減少している	コメが検診・治療開始以降、その期間を短くし、継続的に治療を受ける必要がある
3	がん予防とがん医療	000002	検診によるがん診断死亡率が減少していることは留意したい。	がんがん、その進行を早期に、受診率が早く改善しなければならぬ(122021)。検診受診率が向上した上で、(122021)、発生率が向上した上で(122021)の、この分野のロジックは比較的無理がないかを考える。アクトラムやアクトラム投資でできる。死亡率の減少が十分に進んでいる。
4	がん予防とがん医療	000002	検診によるがん診断死亡率は全て低下している	
5	がん予防とがん医療	000004	(毎年の評価はまだできない)がん予防とがん医療のがん診断死亡率・死亡率にすべて減少している	
6	がん予防とがん医療	000005	中間評価では罹患者は増加が減少しているこの評価である。	
◆がんの1次予防 生活習慣について				
7	全体			中間アクトラムが明確な現状では、ロジックの観点から、アクトラム指標、分野アクトラム、がんアクトラムを評価する上では困難ではないでしょう。
8	分野アクトラム指標	100001		がん検診がん診断罹患率（女性乳がん）が低い点も指摘している。ただし中間アクトラム指標がすべてで、慎重に評価する必要がある。
9	分野アクトラム指標	100001	指標のうちのがんのうつが向上しており、特にがんのがん検診がん診断罹患率は大きく下がっている	がん検診がん診断罹患率と女性乳がんの要約化、加工と水で考えるところの両方を検討し、検証する必要があるためではないか
10	中間アクトラム指標	100001		2点のうち1点はがん検診の1点の評価の観点から、特に留意して、5.1ポイントと他の指標と比較して大きく減少している。報告書では検診の1点の改善、検診率向上と検診率向上。
11	分野アクトラム指標	100001		女性乳がんの分野のがん検診罹患率を要約している。がん検診率の改善については、ロジックが合っていないように、女性乳がん罹患率の増加が大きいわけではないが、現状は評価することが難しい。
12	中間アクトラム指標	全体		中間アクトラムの「がん対策推進協議会として5年に推進が必要と考える事項」更新の仕組み、又は改善等が必要な点

「(第94回)第4期がん対策推進基本計画中間評価 委員意見一覧」

追跡・照合・確認

出所:「第94回がん対策推進協議会(資料)」、「第93回がん対策推進協議会(資料)」(厚生労働省)
「第4期がん対策推進基本計画 ロジックモデル/評価指標」(がん情報サービス)

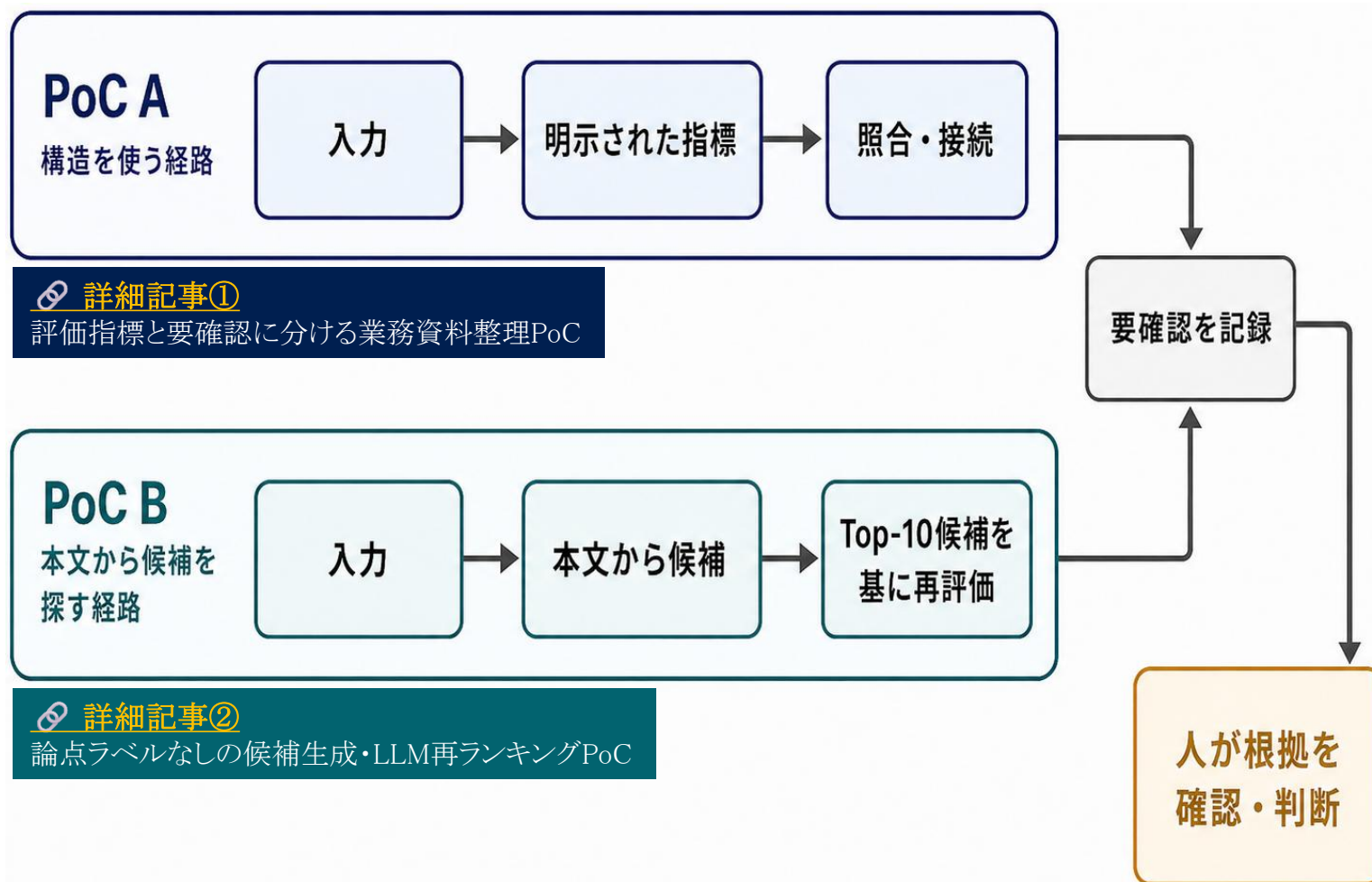
機械処理を試して見えた、公表表の構造の価値



公表表の情報構造が、 PoCでの追跡・照合を可能にした

注：追跡・照合の手掛かりとして確認したものであり、AI利用を前提に設計されたとはまでは本PoCから断定しない。

全体像：構造を使う経路と、本文から候補を探す経路



注：本PoCを抽象化した概念図。事務局の実際の業務フローではない。

PoC A: 明示された指標を使って接続する

指標を利用する経路



属性：性別・部位・年齢階層等

注：接続先は手作業整備・補正を含むローカル資産。

PoC A: 要確認を捨てず、人の判断へ戻す



注：概念例／実データではない。全50意見の確認完了を示さない。

[🔗 詳細記事①](#)

PoC B: 本文から候補を作り、LLMで再評価する

接続済み140意見を評価対象



候補生成とLLM再評価を分け、
接続先候補と根拠を人が確認する



注：要確認50意見は一致率評価の対象外。疑似正解情報はプロンプト生成対象に含めず、実行後比較に使用。



詳細記事②

PoC B: 二つの数値は別の工程を測る

工程別に読む



疑似正解がTop-10に含まれない場合も、生成した候補はLLM再評価の対象



別工程の確認事項 / 単純合算しない

注：疑似正解 = PoC Aの接続結果。唯一の真の正解や政策上の正解ではない。

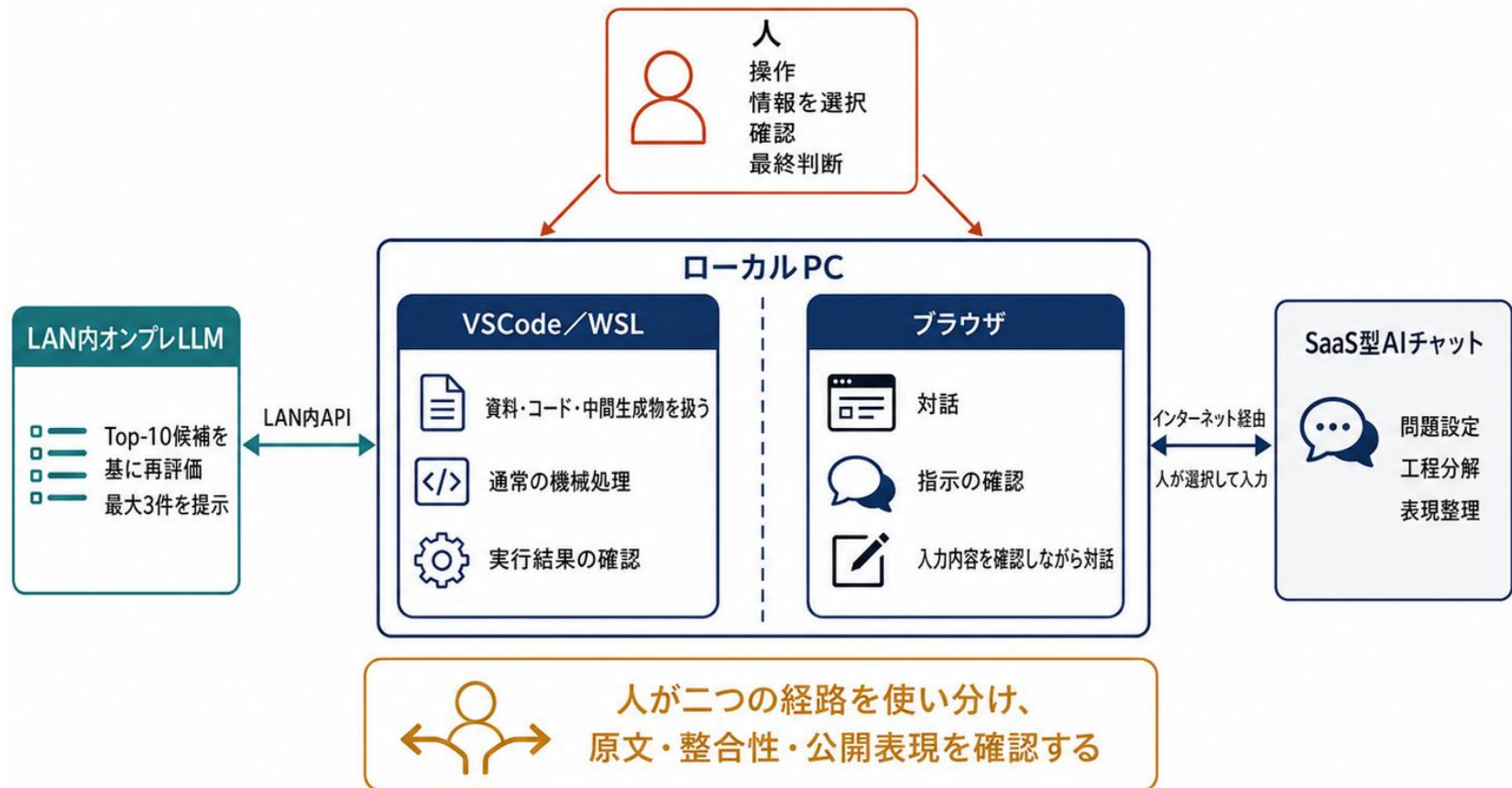
二つの方式の差は、入力の手掛かりと失敗地点

比較軸	PoC A 明示された指標	PoC B 本文から候補
 入力の手掛かり	 指標番号	 意見本文
 候補の作り方	 番号で照合	 本文からTop-10
 確認に使う情報	 番号と接続先	 候補と再評価結果
 失敗する地点	 未接続・要確認	 候補未包含・解析不能
 人へ戻す地点	 接続先の確認	 候補と根拠の確認

注：対象条件が異なるため、結果値の優劣比較ではない。

役割分担:機械処理、生成AI、人を混ぜない

同じローカルPCから操作しても、処理場所と役割は別



ローカル工程：資料・コード・中間生成物を扱う
外部AI：問題設定・工程分解・表現整理

注：図は役割と配置を抽象化した概念図。外部AIへの全入力範囲は未確定で、配置だけで安全性は断定しない。

持ち帰る問い:どこまで追え、どこで人へ戻すか

自組織へ持ち帰る4問

会議メモ・顧客の声・監査指摘 → KPI・事業目標・報告項目



意見と指標の関係を
後から追えるか



原文・根拠へ
戻れるか



AIだけで決めきれない案件を
どこへ戻すか



人はどの判断へ
集中するか

構造



候補整理



人の確認

評価につなぐ鍵は、
資料構造・候補整理・人の確認をつなぐこと

注：本PoCは実運用効果や他領域での性能を保証しない。

結び: 委員意見を追える構造が、AI支援の土台になる

PoCで追跡・照合の手掛かりになった3つの項目

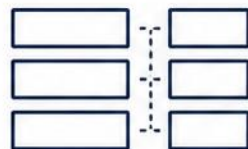
No.



意見を追う

委員意見を一意にたどれる

各ブロック



文脈を保つ

意見のまとまりを保てる

(指標番号)



評価へつなぐ

指標との関係を整理できる

公表資料の**項目構造**が、PoCでの**追跡・照合**を可能にした

生成AIの役割は、**構造**を置き換えることではない。
構造を活かして**候補を整理し、人の確認へ戻す**ことである。

委員意見本文



No. で追う



ブロックで文脈を保つ



で評価へつなぐ



候補整理



人の確認

注：AI向けに設計されたと断定するものではなく、公表資料の項目構造が結果としてPoCでの追跡・照合に有効であったことを示す。

発表の基となった検証記事

PoC A | 構造を使う経路

業務資料整理PoC

オンプレLLMで業務資料を整理するPoC:
外部AIに出しにくい委員会資料を
評価指標と要確認箇所に分ける



PoC B | 本文から候補を探す経路

候補生成・再ランキングPoC

オンプレLLMで委員意見を評価項目に結びつけるPoC:
論点ラベルなし条件で試した
候補生成とLLM再ランキング



記事タイトルの文字部分もクリックできます